

JDTを使ったJIS原案作成



2022年6月

目次

- 1 JDTの位置づけ**
- 2 JIS規格票の構成**
- 3 JDTインストール**
- 4 JDTの起動方法**
- 5 JDTの画面構成**
- 6 JDTによる文書スタイルの調整**
- 7 JDTによる規格票の新規作成**
- 8 補足事項**

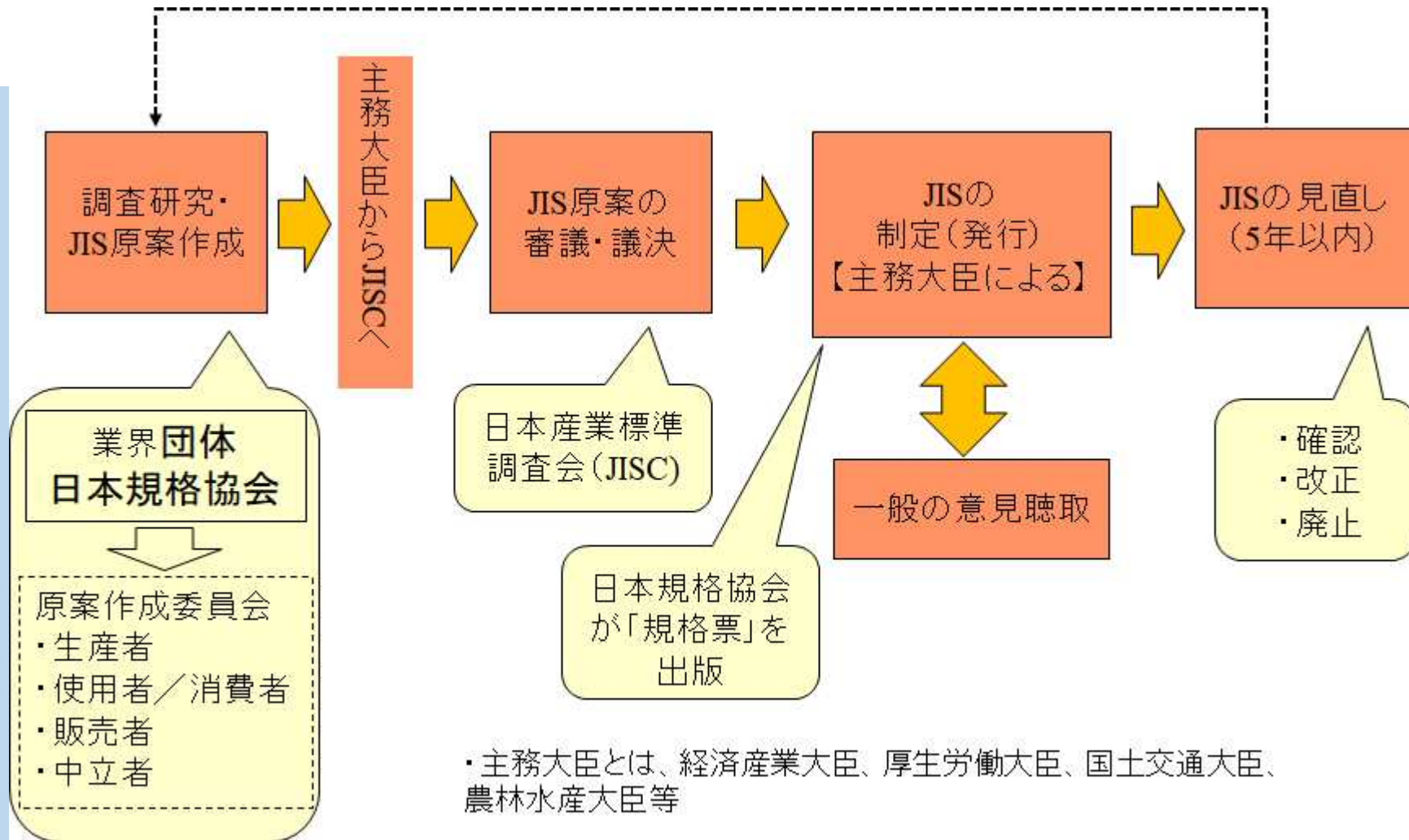
1 JDTの位置づけ

- JIS は、産業標準化法に基づき、主務大臣が制定する国家規格です
- JIS原案作成には、JDTを用いることが求められます

- **主務大臣は、主に経済産業大臣。共管もある**
- **産業標準化法第11条、12条、14条、15条で制定**
- **JSA公募の場合、第12条（利害関係人による申出）**
- **JISC（日本産業標準調査会）のサイトで、JDTの利用を求めている**
- **JDTは、JISCのサイトで配布**
- **電子申請でも、JDTのデータを利用**

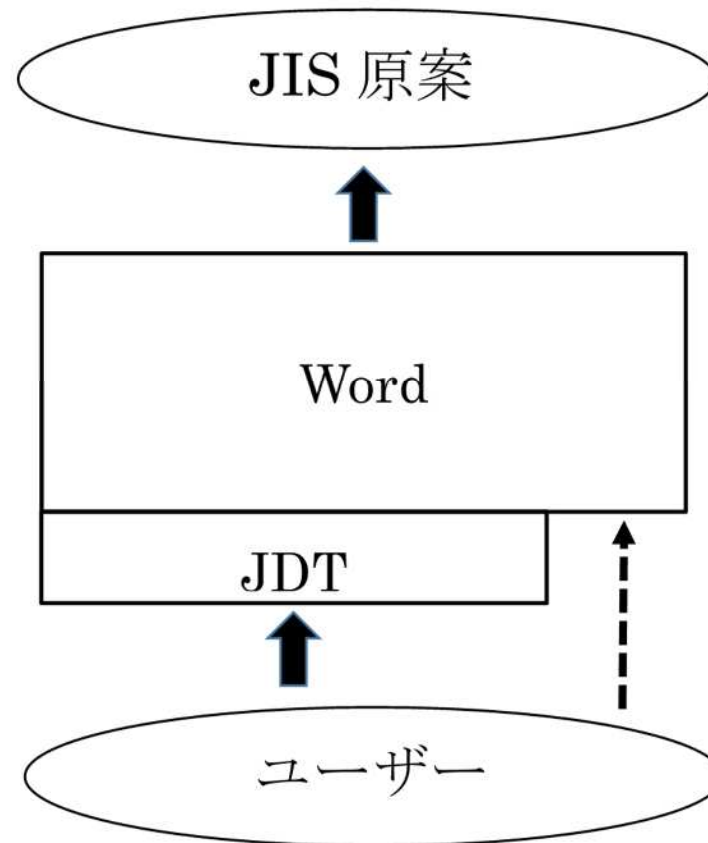
1 JDTの位置づけ

- ・ JIS開発の流れとJDT (JIS Draft Template Wordのテンプレート)

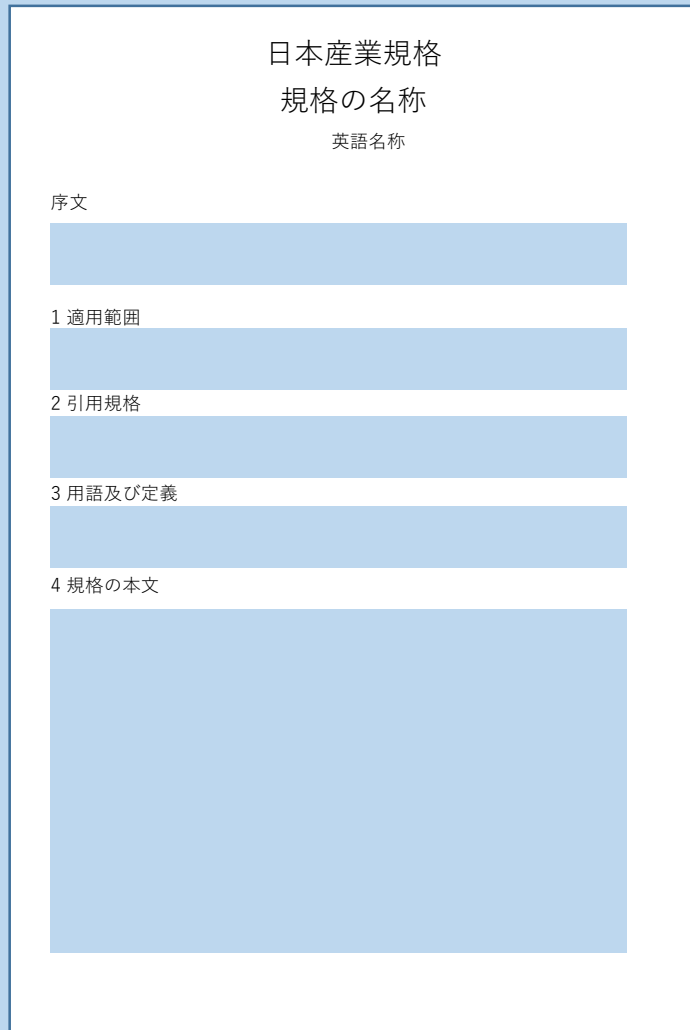


1 JDTの位置づけ

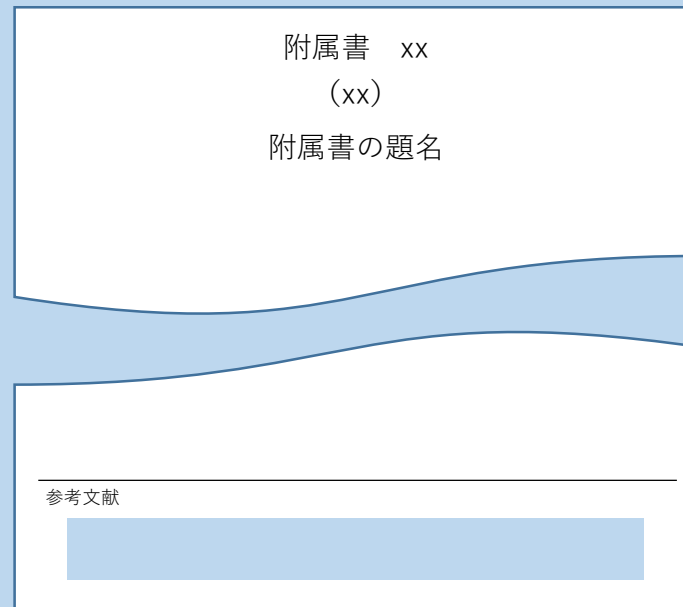
- ・ JDT を使用することにより， JIS Z8301 の規定に合った体裁（段落，字配りなど）の規格票が作成できます



2 JIS規格票の構成



- 序文 : 規格の技術的内容、制定・改正の経緯など記載
- 適用範囲 : 規格が取り扱う主題、適用する範囲を記載
- 引用規格 : 規格の要求事項を規定するために引用される規格を記載
- 用語及び定義 : 規格で用いる用語を理解するために定義を記載
- 規格の本文 : 箇条4以降で企画の内容を記載する。
- 附属書 : 規格本文ではなく、独立して記載したほうが利便性が高くなる項目を別建てで記載し、本文から呼ぶ。



3 JDTインストール

- JISCのホームページからダウンロードし、setup.exeを起動

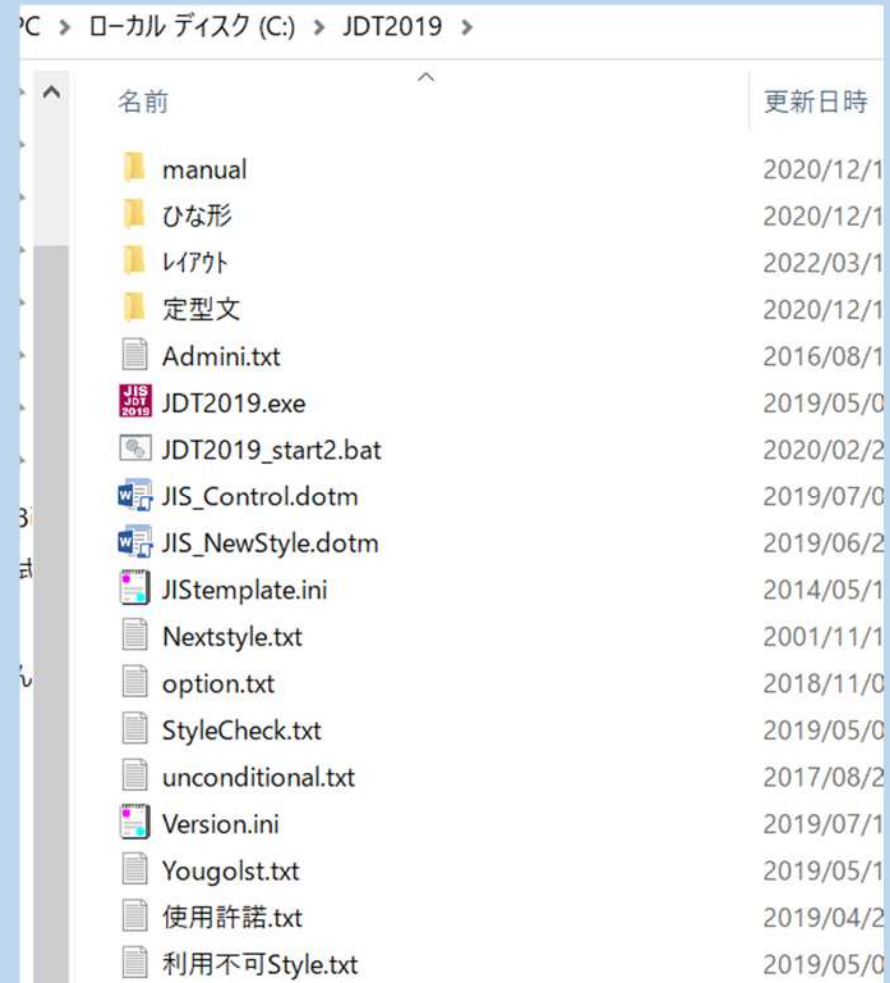
- <https://www.jisc.go.jp/jis-act/proposal-tmp2011.html>
- デフォルトではシステム領域に展開されるが、ユーザー領域でも問題ない
- デスクトップに起動ファイルのショートカットができる



3 JDTインストール

- setup.exeが起動できない場合、JSAまで連絡をお願いします

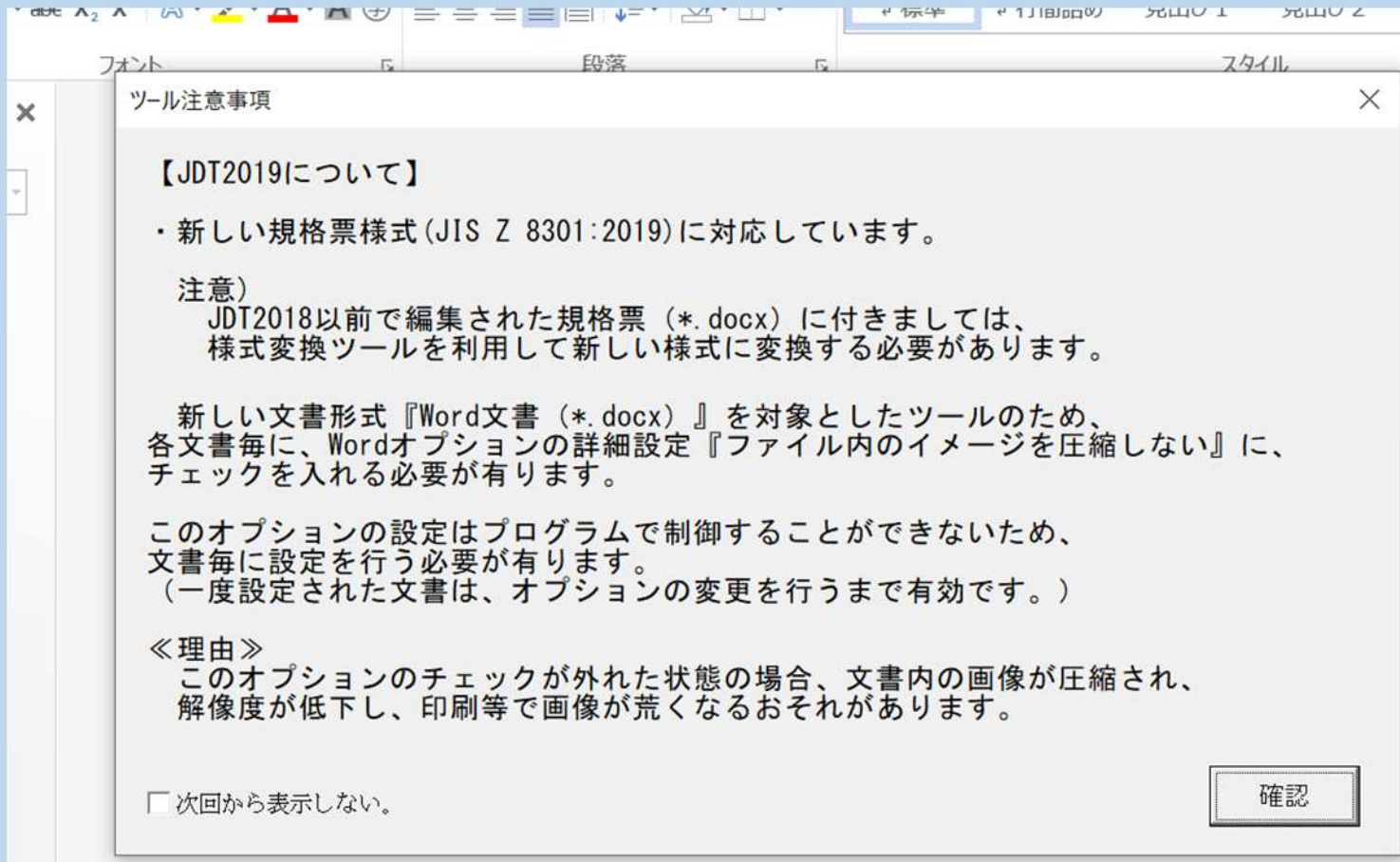
- 展開されるファイル群を、適切なフォルダにコピーしてください
- JSAから圧縮ファイルをお送りします
- ショートカットは手動で生成してください



4 JDTの起動方法

- JDT2019.exe（またはショートカット）から起動します

- **最初の注意事項を確認し、「確認」**



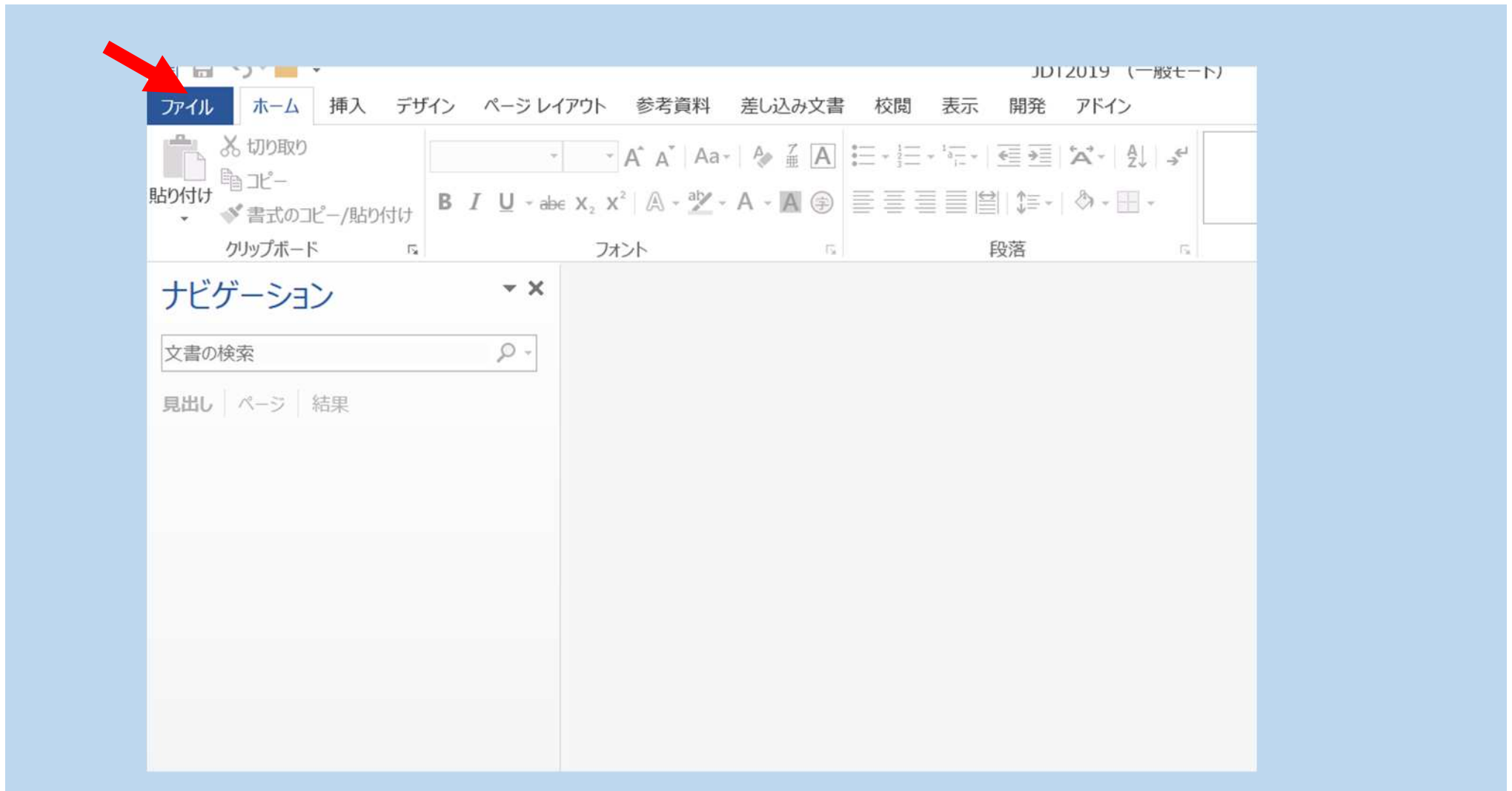
4 JDTの起動方法

- 起動プログラムが動作しない場合、バッチファイルでも代替できます

- **バッチファイルの内容 : START Winword.exe
/n /m /l"C:¥Program Files
(x86)¥JDT2019¥JIS_Control.dotm"**
- **詳細はJSAまで**

4 JDTの起動方法

- ・ 空白の画面が出るので、「ファイル」をクリック



4 JDTの起動方法

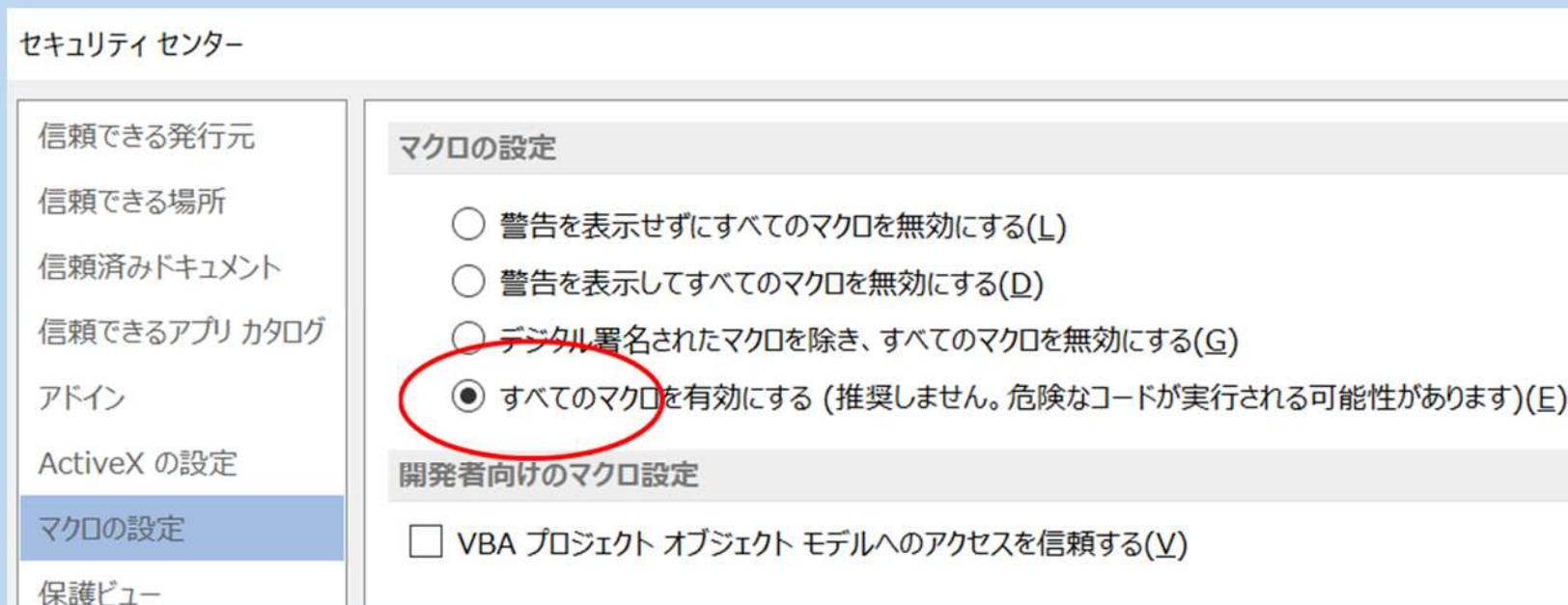
- ・ JDTの初期画面になります。ここから 新規作成・既存データの編集



4 JDTの起動方法

- マクロが動作しない場合、設定を確認してください

- ファイル→オプション→セキュリティセンター
(トラストセンター) の設定**



- JDTのデジタル署名を検討中です

5 JDTの画面構成



The screenshot displays the JDT (Japanese Document Template) software interface. At the top, the title bar reads "文書 2 - JDT2019 (一般モード)". The ribbon menu includes tabs for "ファイル", "★JDT ホーム", "ホーム", "挿入", "デザイン", "ページレイアウト", "差し込み文書", "校閲", "表示", and "開発". The "ホーム" ribbon is active, showing options for text style, section numbering, and other document settings. On the left, a "ナビゲーション" (Navigation) pane shows a search box and a list of search results: "1 適用範囲", "2 引用規格", and "3 用語及び定義". The main editing area shows a document page with a preface section titled "まえがき". The text in the preface discusses the revision of the standard based on the Industrial Standardization Act and the Industrial Standardization Committee's deliberations. A section separator is visible at the bottom of the page, labeled "セクション区切り (奇数ページから新しいセクション)".

6 JDTによる文書スタイルの調整

- ・左上に表示される「スタイル名」（箇条1）を確認し、適切なスタイルをクリックするとカーソルのある段落のスタイルが修正されます

The screenshot shows the Microsoft Word interface. The 'Style' pane on the left is open, showing a list of styles. The style '箇条1' (Bulleted List) is highlighted with a red circle. A red arrow points from this style to the first bullet point in the document, which is labeled 'ここに規' and '修正される'. The document content shows a bulleted list with two items: '1 → 適用範囲' and '2 → 引用規格'. The text 'この規格には、引用規格はない。' is visible below the list.

6 JDTによる文書スタイルの調整

- よく使われるスタイル名

- **箇条 1 (1●●●) 最上位の箇条の見出し**
- **箇条 2 (2.2●●●) 細分箇条の見出し**
- **□段落 箇条、細分箇条の中の段落**
- **細別符号 a) 1)など**
- **注記・注・例・注釈**
- **用語番号、用語名称、用語の説明**
- **図題**
- **表題**

6 JDTによる文書スタイルの調整

・細分箇条、段落、細別

■ 7.30.2 → 試験の手順 **箇条3 (3.3.3●●●)**

試験の手順は、試験体を試験室に 24 時間静置した後、基板に設けられた 3 か所の溝の部分で、塗膜のひび割れ及び穴の有無を目視によって調べる。 **段落**

■ § → 検査 **箇条1 (1●●●)** **番号と題名の間は<タブ>で区切る**

検査は、合理的な抜取検査方式によって行い、箇条 5 及び箇条 6 の規定に適合したものを合格とする。 **□段落**

なお、種類ごとの検査で性能に影響を及ぼす技術的生産条件を変更したときに行う検査項目は、次による。

- a) → 薄付け仕上塗材の場合は、透水性、耐洗浄性、耐衝撃性、耐アルカリ性、耐摩耗性、耐候性、耐変退色性、可とう性、伸び、伸び時の劣化及び吸放湿性とする。 **細別 a)**
- b) → 厚付け仕上塗材の場合は、透水性、耐衝撃性、耐候性及び吸放湿性とする。
- c) → 軽量骨材仕上塗材の場合は、耐アルカリ性、防露性及び耐湿性とする。

細別の中の段落は、インデントが異なる

6 JDTによる文書スタイルの調整

・注記・注・例



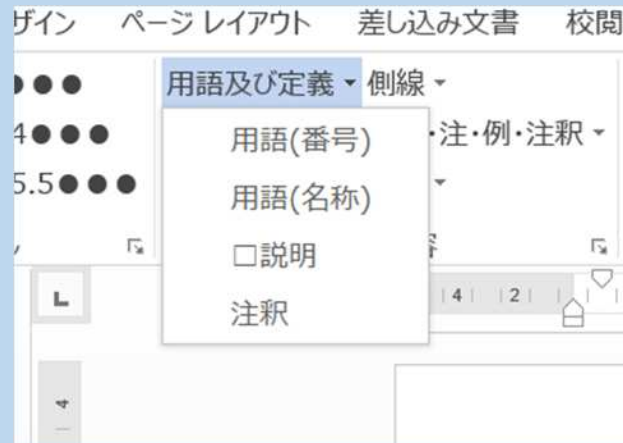
通常は、箇条の下→1字下げ→
 インデント とする

「注記」と文の間は
 <タブ>で区切る

試料から溶剤を気化させるために試料を大気中に
 いる溶剤も取り除く。次に、試料 1g につき 50mL
 せて抽出する。これをろ過し、キエルダールフラス
 吸引・圧搾又は遠心脱水して試料から余分な水分を
 注記→トルエン・メタノールは中毒するおそれが

6 JDTによる文書スタイルの調整

・用語の箇条



3 → 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、次によるほか、JIS A

3.1 用語（番号）

溶出試験 (leaching test) **用語（名称）**

規定された条件で試料を溶媒 (3.2) に接触させて試料中の物
説明

3.2

溶媒 (leachant)

溶出試験 (3.1) で使用する液体

3.3

溶出液 (eluate)

溶出試験 (3.1) で回収した試料液

6 JDTによる文書スタイルの調整

・ 図のタイトル

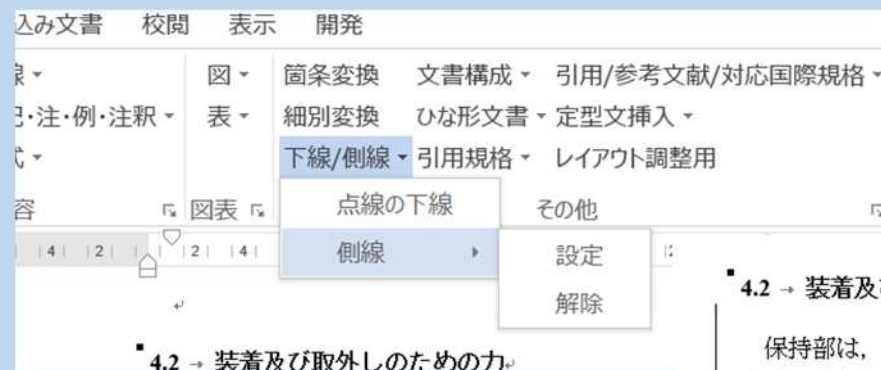
The image shows a screenshot of the JDT (Japanese Document Template) software interface. On the left, a menu is open under the '図' (Figure) tab, showing options like '図作成' (Figure Creation), '図本体' (Figure Body), and '図題' (Figure Title). The '図題' option is highlighted. In the center, a technical diagram of a '還元試験装置' (Reduction Test Device) is shown. The diagram includes components labeled '目皿板' (Baffle Plate) and '熱交換物質' (Heat Exchange Material). To the right of the main chamber, there is a control system consisting of an '自動温度調節器' (Automatic Temperature Controller) connected to a '変圧器' (Transformer), which is powered by a '電源' (Power Source). Below the diagram, the caption '図1-還元試験装置の概要図' (Figure 1 - Overview of the Reduction Test Device) is circled in red. The software interface also shows various menu options like '挿入', '表示', and '開発' at the top.

図題は図の下部、表題は表の上部

6 JDTによる文書スタイルの調整

・ 側線と下線

対応国際規格があり、変更点がある（MOD）の場合、側線又は下線を使います（範囲を指定してから選択する）



4.2 → 装着及び取外しのための力

4.2 → 装着及び取外しのための力

保持部は、高齢者及び障害のある人が弱い力でステッキの装着及び取外し操作が可能であって、かつ、ステッキホルダーに対して何らの特別な操作（ステッキを握り直したり、反対の手に持ち替えたりする操作、片手でだけの操作など）及び時間を必要としないよう設計しなければならない。

側線部分

下線部分

弱い力でも装着及び取外してできるように、保持部は、適度の弾力性をもつものとする。

注記1 → 独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）人間特性データベースによると、70歳～79歳の男女において、95%の人が発揮できる腕の力（肘頭高で押し引きの力）は20Nである。

注記2 → ステッキホルダーを設置する位置及び取付け状態によって、人による適切な力が変化する可能

「側線」はインデントによってずれることがあるので、図形の直線でもかまいません。

7 JDTによる規格票の新規作成

- JDTの初期画面から

The screenshot displays the JDT2019 (一般モード) interface. On the left is a dark blue sidebar with navigation options: 作成及び開く(JDT), 名前を付けて保存, 上書き保存, 閉じる, 編集オプション(JDT), 情報, 環境設定 (JDT), 操作マニュアル(JDT), バージョン情報(JDT), 印刷, オプション, and 終了. The main area is divided into two columns. The left column, titled '既存規格票編集', contains a folder icon labeled '開く'. The right column, titled '規格関連文書作成', contains three document icons labeled '表紙', '解説', and '索引'. Below these is the '新規規格類作成' section, which lists four options: '日本産業規格 (JIS)', '追補', '標準仕様書 (TS)', and '標準報告書 (TR)'. The '日本産業規格 (JIS)' option is circled in red.

7 JDTによる規格票の新規作成

- ・ 書誌情報→定型情報の入力

書誌情報 (JIS)

JIS

規格名称 (日本語)

規格名称 (英語)

定型情報 ✕

まえがき

制定/改正 制定 改正

制定/改正の経緯

11条案件(国費委託によって作成する規格)

12条案件(認定産業標準機関を除く団体が作成する規格)

14条案件(認定産業標準作成機関が作成する規格)

15条案件(認定産業標準作成機関が主務大臣の命によって作成する規格)

団体規格を基にしている

規格の統合又は分割を行う場合 (制定)

1件の規格が複数の規格に分割される場合
 廃止規格番号

複数の規格が1件の規格に統合される場合
 廃止規格番号

複数規格のうち1件が改正され、その他が廃止になる場合 (改正)

特許権などに関する表記

特許権などの存在が確認されない場合

特許権などの存在が1件以上認められる場合

部編成あり

本文

対応国際規格あり

IDT(一致している)

MOD(修正している)

NEQ(同等でない)

引用規格あり

用語及び定義あり 赤は追加入力必要)

7 JDTによる規格票の新規作成

・引用規格入力

上側で入力し、下のボックスに「追加」していく

引用規格入力

引用規格区分
 JIS規格 JIS規格-国際規格 国際規格-JIS規格 国際規格 その他

引用規格

団体略称	規格番号	西暦年	規格名 (後から本文中で入力することもできます)	
ISO	00000	:		
規格	部門	規格番号	西暦年	規格名 (後から本文中で入力することもできます)
JIS	S	0000	:	

対応国際規格区分
 なし 一致 修正

追加 変更 削除

ISO 00000,
 注記 対応日本産業規格: JIS S 0000 (MOD)

OK キャンセル

7 JDTによる規格票の新規作成

- 文章に反映される

まえがき

この規格は、産業標準化法第16条において準用する同法第12条第1項の規定に基づき、**原案作成団体名（団体略称）**から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、**主務大臣名**大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS-X-XXXX:0000**は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性を喚起する。**主務大臣名**大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

まえがきの青字部分は修正してください

定型情報が反映されています

2 → 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がを構成している。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

ISO-0000,

注記 → 対応日本産業規格：JIS-S-0000□ (MOD)

3 → 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、次による。

この規格で用いる主な用語及び定義は、**JIS-X-XXXX**による。

この規格で用いる主な用語及び定義は、次によるほか、**JIS-X-XXXX**による。

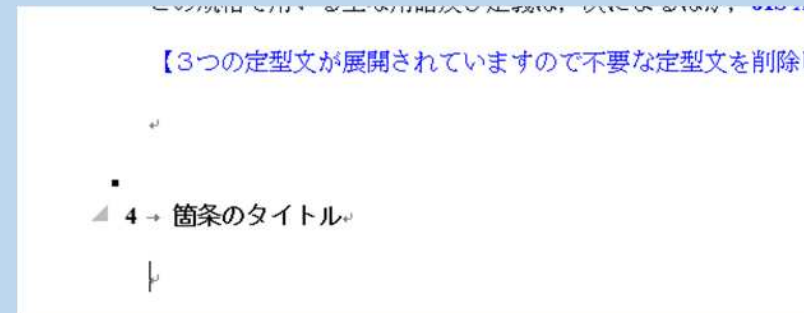
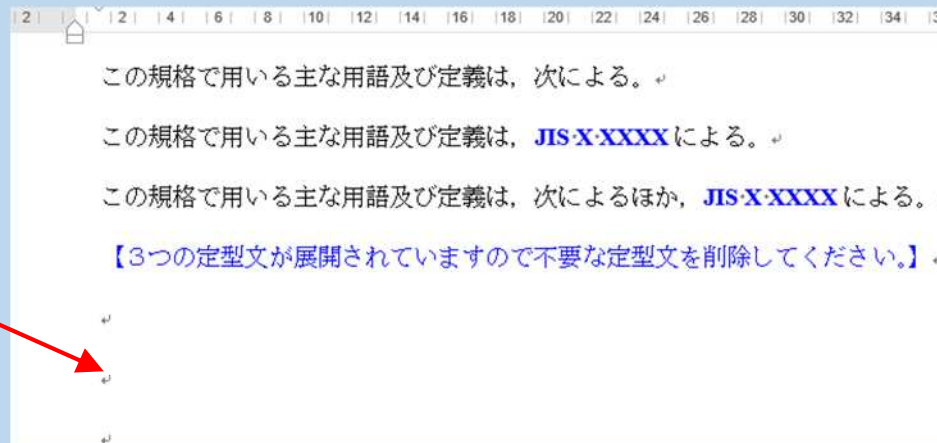
【3つの定型文が展開されていますので不要な定型文を削除してください。】

7 JDTによる規格票の新規作成

- ・ 新規に入力する場合

空白の部分にカーソルを置き、適切なスタイルを選択しながら入力します

ここに
 「4<タブ>箇条のタイトル」
 と入力し、「1●●●●」をク
 リックします



「タイトル」の後で改行すると、自動的に「段落」のスタイルになります

7 JDTによる規格票の新規作成

・作図の例

図→図作成→図取込 で画像データ（tif,BMP,jpgなど）を選択します

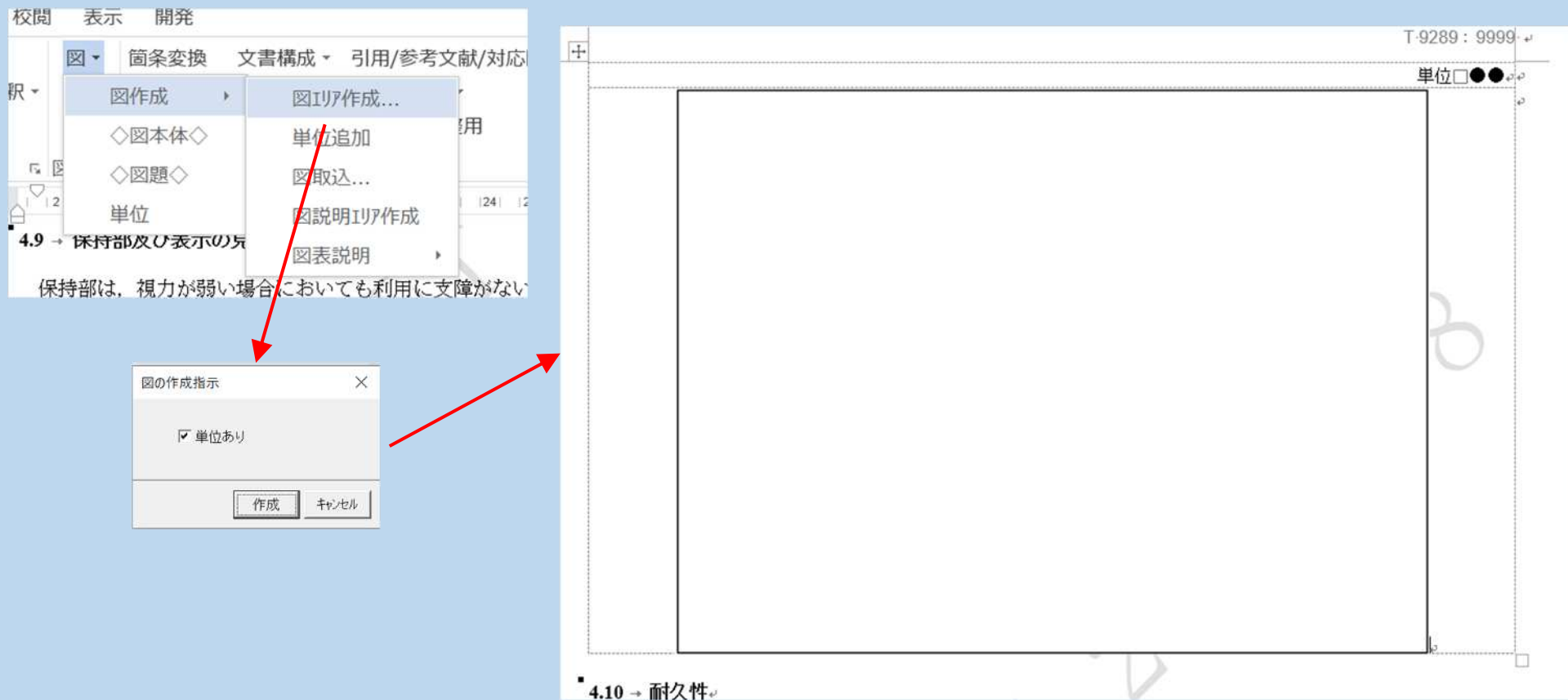


図の後で改行し、「図題」を入力します

7 JDTによる規格票の新規作成

・作図の例

図→図作成→図エリア作成 で描画キャンパスにドラッグすることもできます。

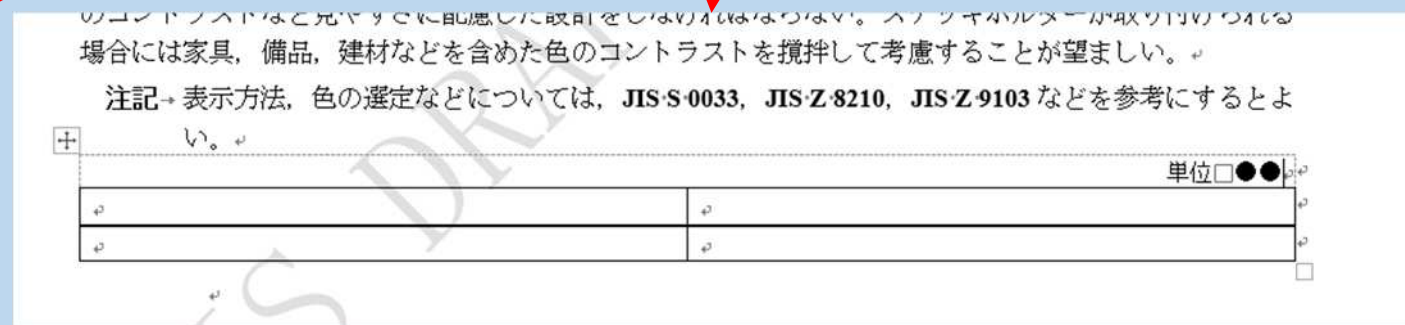
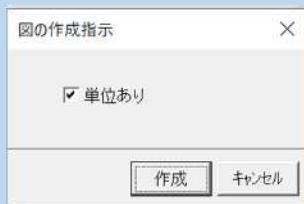
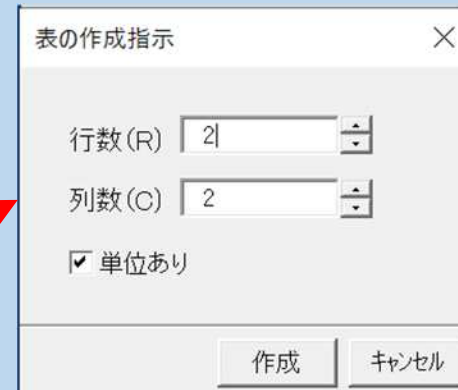
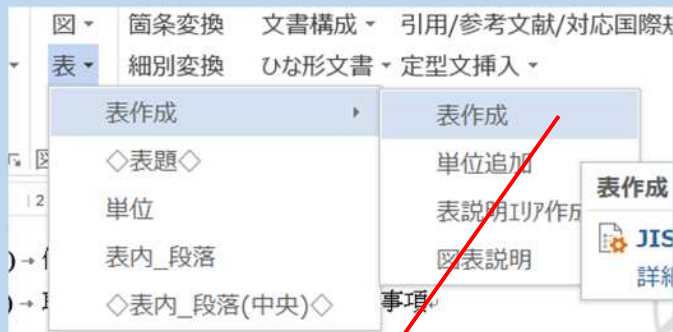


Excelのグラフを利用するときは、カラー設定に注意してください。

7 JDTによる規格票の新規作成

・作表の例

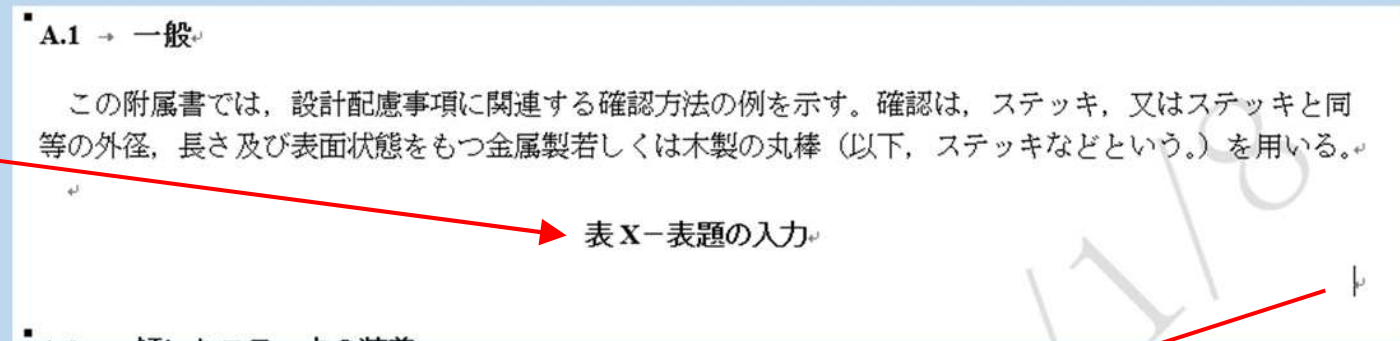
表→表作成→表作成 でWordの作表機能が使えます。



7 JDTによる規格票の新規作成

・ 作表の例

表→表題 で入力してから、Excelの表を貼り付けることもできます。

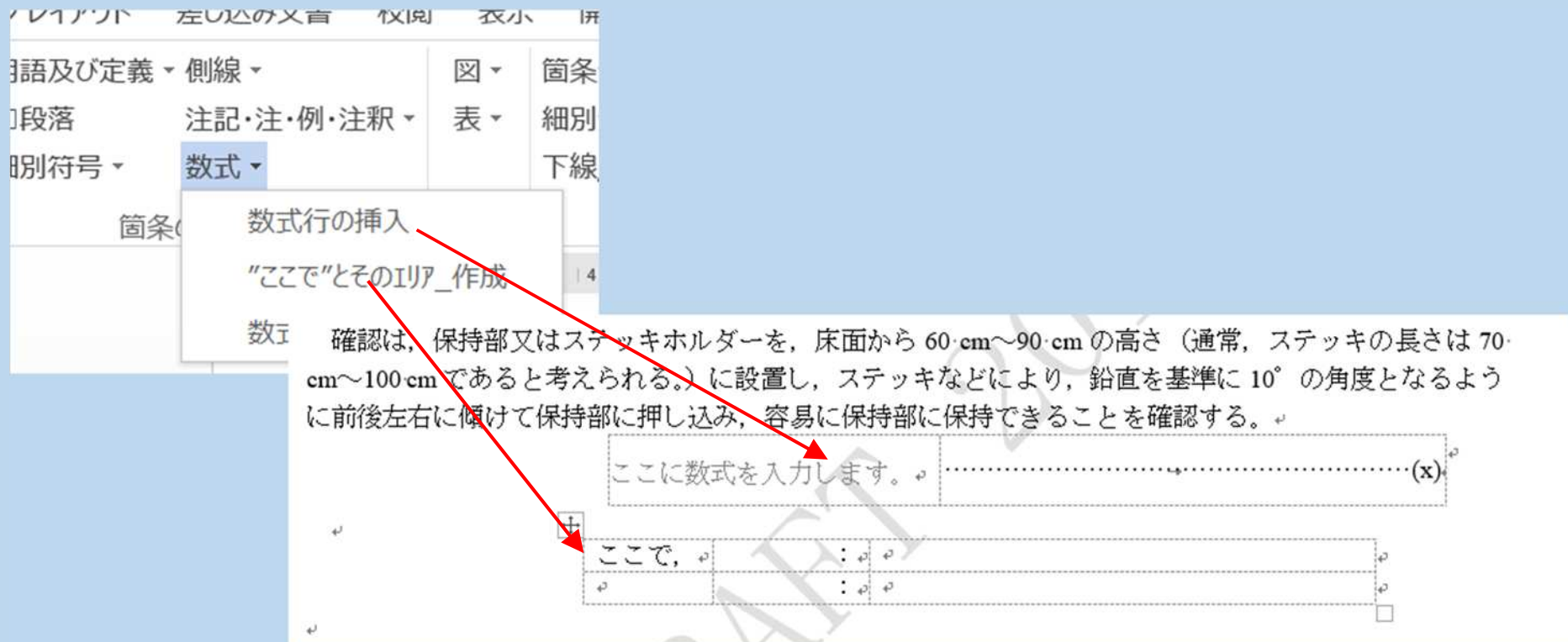


**表題の下に、Excelの表を貼り付ける
(リンク貼り付けは避けてください)**

8 補足説明

- ・ 数式入力

Wordの数式機能を利用します



8 補足説明

・ 解説作成

規格票本文をオープンした状態で解説作成すると、番号・名称などが引き継がれます。



解説作成

規格 部門 番号 : 西暦年 同一年に改正 (西暦年に“R”を付加する)

規格名称(日本語)

一致の対応国際規格番号

団体略称 番号 西暦 年

追補(Amd / Cor)

指示なし

Amendment 1 西暦 年 Amendment 2 西暦 年

Amd.

Cor.

Corrigendum 1 西暦 年 Corrigendum 2 西暦 年

制定・改正の両方のひな形ができるので、不要なものは削除してください。

8 補足説明

- ・ 注記などのインデントの補足

JDTのメニュー表示が、Z8301の規定と異なる箇所があるので注意してください。

The image shows three examples of JDT menu navigation and their corresponding code indentation:

- Example 1:** The menu path is 側線 > 注記・注・例・注釈 > 箇条の下 > 1字下げ. The code shows a main section (4.1) with a sub-section (注記 1) indented by one character.
- Example 2:** The menu path is 側線 > 注記・注・例・注釈 > 細別の下 > 3字下げ. The code shows a sub-section (a) with a sub-sub-section (注記 1) indented by three characters.
- Example 3:** The menu path is 側線 > 注記・注・例・注釈 > 細別の下 > 5字下げ. The code shows a sub-section (b) with a sub-sub-section (注記) indented by five characters.

細分箇条の直下：1字下げインデント

細別a)の直下：
3字下げインデント

細別1)の直下：
4字下げインデント

ご清聴ありがとうございました

お問い合わせ

一般財団法人日本規格協会
産業基盤系規格開発ユニット

阿部 裕治

y_abe@jsa.or.jp